

【知事からの説明】

新田知事より 資料（別添）により富山県成長戦略会議「中間とりまとめ」について説明

【グループ発表（①～⑤グループ）】

①私たちはブランディングチームです。一番票が集まったのが2つありました。1つ目は県庁や市役所の中にBARをつくらうという話です。市長さんも展望台のところにスカイバーがあるのもいいなと言っていたので、県庁とか市役所は入りにくいイメージがあるかもしれないので、もっと一般化されて富山が好きになって、県外からも集まって富山の魅力を発信したくなる。そんな富山県になるんじゃないかなと思いました。そのBARに富山素材を使ったお酒、ジンとかトニック、そんなお酒を飲めるBARにしたらおもしろいんじゃないかなと思います。

いろいろ19個出たんですけど、富山市の短期宿泊ハウスで県外の人に富山を体験してもらおうという案になりました。県外の人に来てもらうパッケージプランというものが必要なんですよ。富山を感じてもらうためには宿泊も含めて暮らしを体験してもらいたいなというふうに思いました。県庁の中にBARをとという案には市長からも票を入れていただいています、ぜひ実現していけたらなと思います。

知事：BARの話は私と藤井さんの独断で決められたら即OKしたいのですが。県庁とか市役所の敷居が高いなと思われるのであれば、それは改善する必要があると思いました。それからまさに暮らすように旅をする。これからはそんな時代だと思います。そのコンセプトで旅行者さんともしっかりと色々な商品を見出していけたらと思いました。

市長：BARの話は知事がおっしゃったとおりですね。展望台でスカイバーになれば、それも観光施設になるなと思いました。市民のみなさんの憩いの場になるのかなと。ショートステイを富山市内いろんなところでやってもらうのは非常に必要だと思っていて、実現性が高い仕掛け、修学旅行や企業に見学をしてもらうとか、もちろん観光もそうですしみなさんと協力して取り組めそうな課題だなと思いました。

②ウェルビーイングをテーマに集まったチームです。ウェルビーイングといっても県内・市内といったところで交流を起こしていくというところと、県外から地域外を超えた交流という2つの観点でウェルビーイングをつくっていかうという話がでていたかなと思います。県内・市内というところに関しては、年齢を問わないコミュニケーションを起こしていきたいであるとか、車社会なので外出するという自体のハードルが高いよねという話がでていました。散歩しやすい町が交流を起こしていくにはいいのかなと思いました。その上でDIYでベンチを作るとか、知らない人との交流がおこる場所をつくっていく。車じゃなくて気軽に散歩できる町をつくっていくことで県内のウェルビーイングが高まっていくのではないかなという話がでていました。

ひとつ提案したいのが、いろんな社会問題でお困りの方が富山にもたくさんいらっしゃると思います。そういった人たちのためにお互い助け合うというシステムをつくっていければなと。富山を助けるという意味で、“富助”というものをシステム化できないかなと考えてお

ります。富山で困っている人たちに対して、今日は私休みなんで手伝いますよとか、近くの隣県の方々との交流をもっていければ。富山というところはこんなに素晴らしいところなんだなということを知ってもらえるようなものを考えていければと思います。

知事： ウェルビーイングに真正面から取り組んでいただきありがとうございました。とみ助、まさに我々が担っている部分は公助の部分です。今おっしゃったような互いに助け合う互助は、大雪の時もスタックした車をみんなで助けるなんてこともありました。例えばもうちょっとシステマティックに行ったり、ポイントという話もありましたが地域通貨にして流通するような、富山市の規模なら可能なんじゃないかなと思いました。それから散歩の町、私も毎朝極力散歩をするようにしておりますが、そんな中でコミュニケーションができる、ベンチというアイデアは確かとほ活でベンチ寄付するってありましたよね？そういう活動が広がればいいなと思いました。

市長： とみ助はいいなと思いました。昔あたりまえにあったようなことをしっかりと認識して今風にとみ助アプリなんかにするのは現実的じゃないかなと思いました。歩いて暮らせるまちづくりは富山市が力を入れておられて、健康寿命に直結しますのでウェルビーイングそのものだと感じておりました。またアイデアを聞かせていただきたいと思いました。

③まちづくりのチームです。ひとつ目はコミュニティバスのルート外装。まちのバスもちょっと寂しいので、子どもたちがもっと喜ぶような外装にさせていただけたらいいかなと思う。富山湾と神通川にサイクリングとか、富山だけでしかできない海と山を繋いだサイクリングロードとか、両方いけるんじゃないかなと思います。個人的には4トンタンクに乗っているんですけども、自転車怖いんです。道路走られていると。専用のサイクリングロードがあれば安心して運転できるかなと。あと、2番目から8番目は一緒じゃないかなと。15歳から働いている子たち、技能実習生の子たち。教育も犯罪のことも何もかも教えられていない状況なんです。オレオレ詐欺の手下に使われかけた子もいますし、薬物に手を出そうとしていた子もいたので、そういう子を県とか市のほうで何かやってもらえないかなと。警察だけではもう手に負えないと思います。それから危機管理、ゾーニングとか。コロナであったんですけども、テレビで見させていただきました。3波4波のときの宿泊療養所、テープ貼っただけですよ。レッドゾーン、イエローゾーン。あれ外（屋外）のやり方なんです。室内は密閉して養生シートなりビニールシートで天井から真下まで密閉しないと意味がない。そういう細かいところを一般の方にも知っていただけるような環境をつくりたい。あとは地元のコミュニティを充実させる、障害を持っている人もみんな仲良く暮らせる状況になったらいいかなと思います。

知事： 5月に富山湾岸サイクリングロードがナショナルサイクルルートという国が認める、まだ全国6つしかないうちのひとつに選ばれました。102キロが氷見から朝日まで自転車専用道路が一气通貫になっていないのです。これを整備していきたいと思っております。障がい者の方にも優しいまちというのも、今年まず実験で空港の横の公園でインクルーシブな公園というのをやりました。大変好評でした。これは障害を持つ方にも健常な子どもたちもみんな一緒になって遊んでいました。これは今後公共的につくっていきます。ユニバーサルでインクルーシブなまちづくりをしていきたいと思っております。

市長：多様な自然や地形を活かしていくのは非常に大事だなと思いました。サイクリングロードだけでなくいろんな地形をもつ富山市ですので大事にしていきたいと思いました。多様性ですね。我々も価値観を認めるということが大事だと思います。今後そんな市づくりを進めていかなければと感じました。教育というのは全てのもといですのでしっかりと研修生の方だけではなくしっかりと進めていかなければならないなと思いました。

④女性の環境改善というテーマだったんですけれども、すべての県民・市民の幸福度を上げるというところで意見をまとめました。多様な人たちが集う居場所をつくらうという案ですけれども、“#富山の不幸せ”を投稿していくというものです。#富山の幸せと#富山の不幸せとあって、富山の不幸せについて不満を述べたことをそれについて改善するということをして一般市民が改善していくことによって不幸せがどんどん改善していくというものです。これはママさんたちが不満を抱えていて窓口に行っても解消されないということで市民や県民の力で改善しつつ、魅力度をアップしていければと思います。

知事：#富山の不幸せ、いいアイデアだと思いますがなかなか怖いなと思います。でも課題を見つめていくきっかけになるかなと思います。全部役所で返すものではなくてユーザー同士でこんな解決もできるよとなっていけば、より建設的かなと思いました。

市長：富山の不幸せから解決方法を探っていくという発想の転換がいいなと思いました。みなさんの力で市民の不幸せを幸せにしていくというのは、市民ひとりひとりが考えていただかなければ実現しないんだなと感じました。役所としてはそれを応援していきたいですね。

⑤ビジネス的な人材の還流であったりスタートアップというワードで集まったチームです。票が集まったのが、ライトな移住×企業誘致サテライトオフィス、若い世代のチャレンジ。いずれも、暮らすこと働くことチャレンジすることのハードルを下げるということに共通認識としてありました。気軽にチャレンジできる仕組みをつくること。そしてチャレンジしている人たちが個人で発信をしていくことで次のチャレンジする人を生み出していくという循環をつくっていききたいなと思いました。きっかけとしては堅いことじゃなくて、おいしいこととか楽しいことがモチベーションになると富山で暮らすこと働くことにも紐づいてくると思います。

知事：コロナで東京一極集中危ないね、だからみんな地方に行くかというとなんな甘いもんじゃないですね。やはり移住するハードルが高いので、いかにハードルを下げるか。いいアイデアだと思います。来ればいいところだとわかってもらえる自信があるのですが、やはりそこをどう繋げていくかの工夫だと思います。

市長：私はこのグループのディスカッションをよく聞いていたのですが、ハードルを下げるとかチャレンジする風土をつくる。そして例え失敗しても責めない。という風土が必要だということが根底にあるのは大事だと思います。富山の良いものをSNSで発信するというのは、体感した自分たちが個人的な繋がりの中で発信していくというのが一番説得力があるという意見が私には響きましたので、そういうふうにできたらいいなと感じました。

【振り返り】

参加者：短い時間でたくさんアイデアができました。今まで県とか市がただやりたいことを聞いてどうかというだけだったのですが、こうやって自分たちが自分事として話すことは大事だと思います。それをこれから自分たちがどうやっていけるかというのも課題だなと思いました。今日をきっかけにみなさんと繋がって、みんながやりたいなと思ったことを実現するための違った会議ができたらいいなと感じました。

参加者：知事から6つの柱という話があったのですが、ここに来る前に6つの柱はバラバラなものなのかなと思っていたのですが、ここにきて6つの柱は切っても切り離せない関係なんだなと思いました。富山・富山市を良くしていくためには全て考えていかなければならないんだなというところで、今日学んだこととしては広い視点をもっていろんなことを情報を仕入れていかなければならないと感じました。

参加者：いつもだったら不満を行政に何とかしてくださいっていうのだったんですけど、そうじゃなくて自分たちのこととして解決にはどうしたらいいかと自分たちが考える素晴らしい機会だったなと思います。こういうことをどんどん繰り返して主体的に富山県・富山市を良くしていくのが大切だと思いました。

参加者：みなさんとの繋がりとかコミュニケーションがすごく大事なんだなと思いました。自己実現とかも必要なんでしょうけどもやはり人と人が認め合うとか尊重し合うとかそういうコミュニケーションを安心してできる場所をこれから考えてやっていきたいと思いました。

参加者：何ができるのかなと不安の中で参加させていただいたのですが、私は富山生まれ富山育ちなんですけれども東京とかアメリカにも何度か。そこでは自分たちが住んでる町を自慢している。ここは楽しいんだよ！あなたのまちは楽しいの？ということ当たり前のように話していました。富山はなかなか自分たちのいいところを言えない人たちがいるんじゃないかなと思いました。その中で、今日こんなこともできるんだ、あんなこともしてみたいなということが広がりました。あとは僕らがそう思うことをもっと県にも聞いて頂いて、こういう場があったら嬉しいなと思いました。もっといろんな人にアイデアを出してもらいたいと思いました。

知事：今の話にも通じるのですが、富山人の自慢下手と良く言われます。これからはどんどんアピールしていくことが必要だと思います。6つの柱のうちのひとつ、ブランディング。これをしっかりやっていって、アピールしやすいように恥ずかしくないようにしていきたいと思います。ここにいらっしゃる方は大丈夫だと思いますが、どうかみなさんの周りも自慢上手な富山県にしていきたいと思います。

参加者：僕は県庁にBARをという案を出しました。BARっていうのは交流する場だと思っていますし、同じ思いの人が集まったりもするので僕は県庁にBARがあったら本当にいいなと思

います。富山の素材を使った蒸留酒・醸造酒・清涼飲料を通して県外からもいろんな人が集まるといいなと思いました。

参加者：私はこのような場にあまり参加したことがなかったので、応募したとき少し緊張していたのですが、すごくたくさん意見がでて楽しかったです。とても貴重な機会だと思うのですが、小中学生とか高校生とかももっと幅広い世代の方が参加できるように、このような会が月に一回とかもっと多くの回数を開催していただければいいなと思います。

参加者：ひとつ思うのは自治体にやっていただきたいことがひとつだけあって、県民と市民の命を守るということが大前提だとは思いますが、今産後のママの自殺が増えているということでそれをなんとかしていただきたい。こういう会を開催してくださるのはとてもいいことだと思うのですが、多様な世代ということであれば今日の会議に託児があるとか、子どももいいよとか、ママさんたちも集まってこそその対話ができるんじゃないかなと思いますので、これからも楽しみにしております。